

令和3年度

鳥取県先端ICT利活用サービス等開発・実証支援補助金  
【募集要領】

※先端ICTとは=IoT、AI、5G等の先端技術や、その他の革新目覚ましいICTのこと。

○ 受付期間

令和3年10月7日（木）～ 令和3年11月24日（水）午後5時 必着

○ 審査会

令和3年12月 <予定>

○ 窓口・問合せ・応募先

〒680-8570 鳥取市東町一丁目220番地

鳥取県 商工労働部 産業未来創造課 産業支援担当 西村・高橋

電話：0857-26-7246、ファクシミリ：0857-26-8117

E-Mail：sangyoumirai@pref.tottori.lg.jp

※ 本募集要領は、県のホームページ

（とりネット：<http://www.pref.tottori.lg.jp/257689.htm>）

からダウンロードできます。

令和3年10月

鳥取県商工労働部産業未来創造課

# 鳥取県先端 I C T 利活用サービス等開発・実証支援補助金募集要領

「令和3年度鳥取県先端 I C T 利活用サービス等開発・実証支援補助金」について、事業募集を行いますので、交付を希望される方は、下記に基づき応募されるよう御案内します。

注) 先端 I C T とは = I o T、A I、5 G 等の先端技術や、その他の革新目覚ましい I C T のこと。

## ■ 1 制度の目的

本補助金は、県内企業が企業及び県内市町村等と連携して行う、I o T、ビッグデータ分析、A I 等の先端技術や革新目覚ましい I C T (通信技術) を活用したシステム・サービスの開発及び県内実証の取組を支援することで、先端 I C T を活用した新事業展開やイノベーションの促進を図るとともに、先端技術の地域実装及び定着による県内各分野の高度化や課題解決と、技術的ノウハウや成果の共有・蓄積による県内での先端技術の利活用促進を図ることを目的としています。

## ■ 2 補助対象者

本補助金の対象者は、次の要件を全て満たす者とします。

(1) 「とっとりDXラボ(とっとり I o T 推進ラボ)」に参画している事業者であること。

※現時点で参画していなくても申請までに参画すれば可

(新規参画申請方法：<https://www.pref.tottori.lg.jp/277930.htm>)

(2) 鳥取県内に本店、支店、営業所、事務所その他名称の如何を問わず、事業を行うために必要な施設を有するとともに、鳥取県内において主体的に開発に取り組む能力を有すること。

(3) 風俗営業等の規制及び業務の適正化に関する法律(昭和23年法律第122号)第2条に定める風俗営業、性風俗関連特殊営業又は接客業務受託営業を営む者ではないこと。

(4) 暴力団(暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律(平成3年法律第77号。以下「暴対法」という。)第2条第2号に規定する暴力団をいう。以下同じ。)ではないこと。なお、個人事業主の場合は暴力団員(暴対法第2条第6号に定める暴力団員をいう。以下同じ。)ではないこと。

(5) 暴力団若しくは暴力団員の利益につながる活動を行い、又は暴力団若しくは暴力団員と密接な関係を有する者ではないこと。

(6) 事業開始から終了するまでの間、(3)、(4)及び(5)を満たす1者以上の事業者と連携して次の3の表中、「補助事業」欄に掲げるいずれかの事業を行う者であること。

(7) 県内市町村と連携して実証を行う者であること(ただし、補助事業のうち、「地域実装定着型」を実施する場合に限る。)

## ■ 3 補助事業・補助率・補助限度額・事業実施期間

補助対象経費は本事業の対象として明確に区分できるもので、かつ証拠書類によって金額等が確認できるもののみになります。(交付決定前に発注、購入、契約等を実施したものは補助対象となりません。なお、交付決定前に見積等を取ることは可能です。)

補助事業	補助率	補助限度額	事業期間
<b>【最先端技術挑戦型】</b> 将来的に地域への普及が期待される高度な最先端技術（5G・ロボット等）を活用した新たな商品・サービスの開発・実証による課題解決等に資する事業	1/2	1,000万円	最大 24か月
<b>【地域実装定着型】</b> 開発・実証後に県内（地域）での定着が見込まれる、先端技術を活用した新たな商品・サービスの開発・自治体と連携した地域実装による県内各分野の高度化及び課題解決等に資する事業		800万円	最大 12か月

#### ■ 4 採択予定件数

最先端技術挑戦型、地域実装定着型ともにそれぞれ1件程度

#### ■ 5 補助対象経費

経費区分	内容
1 直接人件費	事業に従事する従業員・アルバイト等について、当該開発に直接従事する時間の給与・賃金相当額
2 ソフトウェア開発環境使用料及び購入費	ソフトウェア開発に必要な開発環境の使用料（サーバー利用料等）及び購入費（取得金額30万円未満のものに限る）
3 委託費	自社で不可能なソフトウェア等の開発の一部について、外部委託に要する経費（県内事業者が実施したのものに限る。ただし、やむを得ない事情で県内事業者への発注が困難と事前に県が認めた場合については、この限りでない。）
4 機械装置・工具器具費	開発に必要な機械装置・工具器具類の購入（取得金額30万円未満のものに限る）、借用に要する経費
5 減価償却費	開発に必要な新たに購入する取得金額30万円以上のソフトウェア、機械装置・工具器具類について、補助事業実施期間に発生する減価償却費
6 外部専門家受入経費	補助事業者が開発に関する専門知識や、開発のための技術的ノウハウ等を得るために行う、外部専門家の受入に要する経費（専門家への旅費・謝金、専門家を招いての従業員講習のための会場借上料等）
7 その他	補助事業遂行のために要すると県が認める経費

※交付決定額全体に対する開発外注委託費の経費配分割合は、50パーセント以下とする。  
 ※機械装置・工具器具費、減価償却費については、量産用設備、開発目的以外の汎用性設備は対象外とする。

注) 消費税及び地方消費税は補助対象経費に含みません。応募時及び交付申請時には、消費税及び地方消費税は除いてください。また、振込手数料等も補助対象経費に含みません。応募時及び交付申請時には、振込手数料等は除いてください。

注) 本補助金の額は、「補助対象経費」に「補助率」を乗じ、千円未満の端数を切り捨てた額とします。補助事業実施期間中に、補助事業において開発するシステム・サービスの試験導入等により利用者から利用料を徴収する場合は、当該徴収額を補助対象経費から控除した額に補助率を乗じて得た額を本補助金の額とします。

## ■ 6 応募方法

### (1) 募集期間

令和3年10月7日(木)～令和3年11月24日(水)午後5時 必着

### (2) 提出先(郵送又は持参ください。)

〒680-8570 鳥取市東町一丁目220番地  
鳥取県 商工労働部 産業未来創造課 産業支援担当 西村

### (3) 提出書類及び提出部数

鳥取県先端ICT利活用サービス等開発・実証支援事業提案書 7部

※申請書、添付資料が揃ったものを7部提出してください。

添付書類は以下のチェックリストで確認してください。

※様式は、県のホームページ(<http://www.pref.tottori.lg.jp/257689.htm>)にあるファイルをダウンロードして使用してください。

#### <申請書添付書類>

- 申請者の登記簿謄本(写しで可)
- 申請者の直近2期分の決算書(写しで可)
- 鳥取県が課税する全ての県税(個人県民税及び地方消費税を除く)に未納がないことが確認できる書類(納税証明書等)
- 申請者及び連携先の企業等の概要がわかる資料(ただし、支援機関、学術機関、自治体を除く。)
- 事業の全容がわかる資料(システム概要、ビジネスモデル概略模式図、全体スケジュールなど)
- 補助対象経費の積算根拠となる見積書の写しや製品カタログの写し等

## ■ 7 採択決定

### (1) 審査

審査は提出書類の記載内容を確認の上、有識者等による「鳥取県補助金等審査会(鳥取県先端ICT利活用サービス等開発・実証支援補助金審査会)」(書類審査及びプレゼンテーション評価)で行い、その判断等を踏まえ採択者を決定します。(審査中の経過等に関する問い合わせには応じられません。あらかじめ御了承ください。)

#### 【評価の主なポイント】

次の観点から総合的に審査を行い、予算の範囲内で優先順位により採択決定します。

#### ① 新規性・革新性

- 先端ICTの機能性を生かした提案となっているか。
- これまでにない新しいサービス・ビジネスモデルが期待できるか。
- 新たに開発するサービスが属する市場のニーズ・規模、類似サービスに関する分析・調査が十分に行われており、サービスとして差別化を図ることができるものであるか。

#### ② 地域性

- 本県の特性(資源、課題)を活かした提案となっているか。
- 県内の地域や企業と連携し、開発・実証の内容を広く波及させ、技術や知見が県内の先端ICT利活用推進に資する提案となっているか。

#### ③ 計画性

- 開発から実証、将来的な実装までのステップが明確になっているか。
- 開発・実証の各段階において実現すべきことが定性的・定量的目標として具体的に定められているか。

#### ④ 実現性

- 事業の実施体制は十分か。
- 経営基盤、管理能力、過去の実績等を総合的に勘案し、事業を実現できると評価できるか。
- 開発から実証までの各段階において実現すべきことが定性的・定量的な目標として具体的に定められているか。
- 事業の内容、スケジュール、市場動向等から、計画が実現できるものとなっているか。

#### ⑤ 個別項目

##### <最先端技術挑戦型>

- 最先端技術の特性が最大限発揮され、未来の可能性を感じられる提案となっているか。

##### <地域実装定着型>

- 実証後の地域での実装が見込まれ、県内各分野の高度化及び課題解決等、先端技術導入の先導事例として期待される提案となっているか。

### (2) 審査結果と公表

審査結果（採択決定の可否）は応募者全員に書面で通知します。

採択者については産業未来創造課ホームページで、採択者名、採択テーマを公表します。また、補助事業者による補助事業の成果を「とっとりDXラボ（とっとりIoT推進ラボ）」内において公表することがあります。ただし、取組内容により、公表が時期尚早のもの、好ましくないものについては、公表内容を協議の上、決定します。

## ■ 8 補助事業に関する注意事項

### (1) 他の助成制度等への申請

- ア 本補助事業と同じ内容で県から同種の補助金等を受けている又は受ける予定となっている場合は、本補助金に応募することはできません。
- イ 本補助事業と同じ内容で上記ア以外の他の助成制度に申請する予定がある、又は申請している場合は、その旨を記載してください。

当該助成制度の対象経費と重複する経費は、本補助金の補助対象経費から除きます。

### (2) 提出書類に関する注意事項

- ア 提出書類には図や表などを積極的に使用し、わかりやすい形で作成をお願いします。
- イ 必要に応じて別途追加資料の提出をお願いする場合があります。
- ウ 応募に係る一切の費用は応募者自身の負担となります。
- エ 応募書類は返却しませんのであらかじめ御了承ください。
- オ 応募書類は鳥取県情報公開条例(平成12年鳥取県条例第2号)の適用を受けます。

### (3) 補助対象経費に関する注意事項

- ア 補助対象経費は、補助金交付決定後、事業期間内に発注・契約・購入・支出する（実際に支払が行われる）費用に限られます。交付決定前に契約・発注・購入等した費用、事業期間を過ぎてから支出した費用は補助対象外となりますので御注意ください。

なお、交付決定前に見積等を取ることは可能です。

- イ 補助対象経費は、本事業の対象として明確に経理が区分でき、かつ証拠書類によって金額等が確認できるもののみとなります。補助対象経費に係る専用口座を開設することが望ましいです。

### (4) 消費税等の取扱い

消費税及び地方消費税は補助対象経費に含みません。応募時及び交付申請時には、消費税

及び地方消費税は除いてください。

(5) 振込手数料等の取扱い

振込手数料等は補助対象経費に含みません。応募時及び交付申請時には、振込手数料等は除いてください。

(6) 補助金の支払

補助金は原則として精算払となります。ただし、補助事業者が希望する場合は概算払を受けられる場合があります。詳しくは窓口・問合せ先に御確認ください。

(7) 県内事業者への発注

補助事業の実施にあたっては、鳥取県産業振興条例(平成23年12月鳥取県条例第68号)の趣旨を踏まえ、県内事業者への発注に努めなければなりません。

(8) 変更手続等

ア 補助事業の内容の変更をする場合や補助事業に要する経費の配分の変更をする場合(軽微なものを除く。)には、内容によっては予め計画変更の承認を受ける必要があります。

イ 補助事業を中止、又は廃止する場合は、速やかに申請し、承認を受ける必要があります。

(9) 補助事業の実績報告

本補助金に係る事業の「完了」とは、事業本体とその精算業務及び、それに伴う組織内の意思決定等の手続きが全て終了することを指します。事業完了後15日以内に実績報告書を提出してください。

(10) 補助事業の進捗状況報告

ア 各年度の9月30日現在における補助事業の進捗状況を、当該年度の10月15日までに報告してください。

イ 事業実施が年度をまたぐときは、当該年度までの進捗状況を、翌年度の4月15日までに報告してください。

(11) 立入検査等

補助事業の適正を期すために必要があるときは、事務所、事業所等に立ち入り、帳簿書類その他の物件を検査し、若しくは、関係者に質問することがあります。

(12) 帳簿の保存等

ア 補助事業に係る支出状況等を証する書類は、県の補助事業監査等の対象書類となります。必要な書類が保存されていない場合、不適切な経理が行われたと認められた場合は補助金の返還対象となることがあります。

イ 本補助事業に係る経理については、帳簿書類及びその証憑書類を保存し、かつ、これらの書類を補助事業が完了した日の属する年度の翌年度から起算して5年間保存してください。

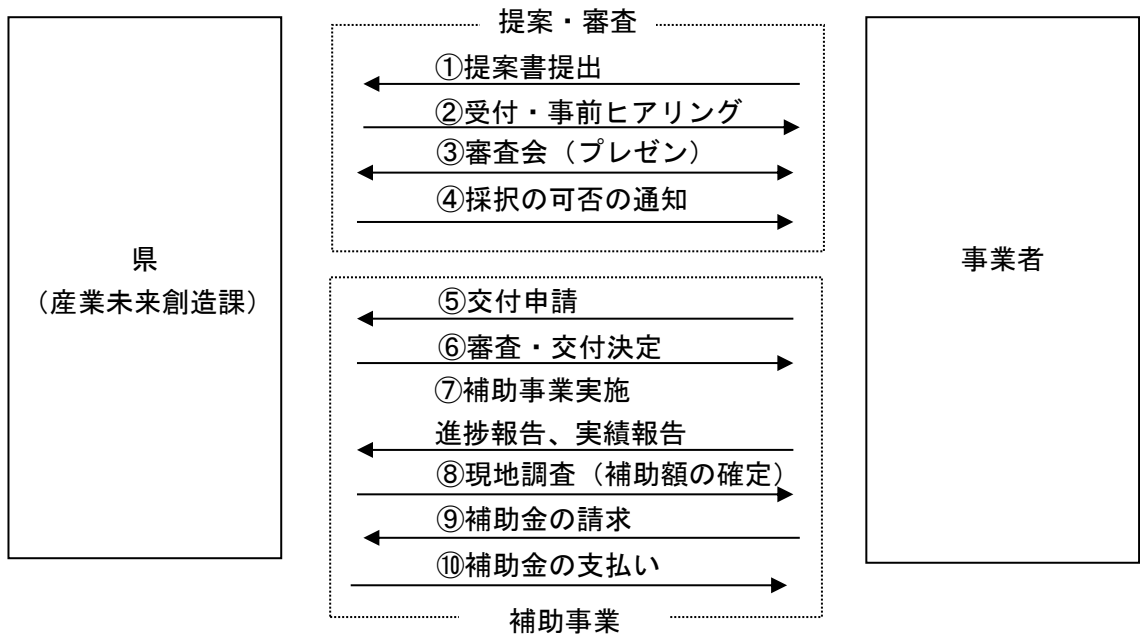
(13) 交付決定の取消及び処分

次のいずれかに該当すると認められるときは、交付決定後においても、その交付決定の全額又はその一部の額を取消することがあります。その場合、既に交付された補助金のうちその取消額の返還を命ずることがあります。

ア 法令等に基づく処分・指示に違反したとき

イ 虚偽申請等があったとき、交付決定の内容や目的に反し補助金を使用したとき 等

■ 9 補助事業の流れ



■ 10 補助事業スケジュール表

項目	実施者	時期	内容
① 事業提案書提出	申請者	R3. 10. 7 ～R3. 11. 24	提案書により応募いただくものです。受付後、有識者及び県によりヒアリングを行います。
② 審査会	県	R3. 12 月頃	プレゼンテーションによる審査を実施後、事業採択の可否を通知します。
③ 補助金交付申請	申請者	R3. 1 月上旬	補助金交付申請書を提出いただきます。
④ 補助金交付決定	県	R4. 1 月	プレゼンテーションの審査結果を踏まえ、交付決定を通知します。
⑤ 補助事業の着手	申請者	交付決定日以降	<u>交付決定日以前に実施した事業は補助対象となりません。</u>
⑥ 定期進捗状況報告 (各年度 9. 30 現在)	申請者	各年度 10. 1 ～各年度 10. 15	各年度 9 月 30 日現在における事業進捗状況を報告いただきます。(実績払いは無し)
⑦ 各年度進捗状況報告 (各年度 3. 31 現在)	申請者	各年度 4. 1 ～各年度 4. 15	各年度 (～3. 31) の事業進捗状況を報告いただきます
⑧ 現地調査 (各年度分)	県	各年度 5 月中	各年度実績 (事業成果・支出状況・経理処理) について、県職員が調査を行います。
⑨ 各年度支払通知	県	各年度 5 月中	各年度の補助金の支払額を通知します。
⑩ 実績報告書 (全体分)	申請者	交付決定から 24 ヶ月以内 (地域実装定着型 については 12 ヶ月以内)	補助事業全体の実績を報告いただきます。なお、 <u>事業完了から 15 日以内に提出する必要があります。</u>
⑪ 現地調査 (最終年度分)	県	実績報告後 速やかに	全体実績 (事業成果及び最終年度分事業の支出状況・経理処理) について、県職員が訪問して現地調査を行います。
⑫ 確定通知	県	現地調査から 半月程度	補助金額の確定を行い、最終年度補助金の支払額を通知します。
⑬ 補助金支払 (最終年度分)	県	現地調査から 1 ヶ月程度	最終年度補助金の精算払を行います。